

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	今期事業（第3年次）では、「コミュニティ職業技術訓練センター（以下、CTTC）にてガザ地区3県の脆弱な立場にある若者が、収入に結び付けることのできる職業技術訓練（研修）の機会を得ること」とのプロジェクト目標を、100%達成することができた。当初の計画通り、ガザ地区3県の若者600名に対して職業技術訓練の機会を提供し、522名が修了した。修了生が習得した技術を使って仕事ができるサービス・コーナーが設置され、また、公益市民団体（以下、CBO）が12回のワークショップを通して、CTTCを運営するためのノウハウを学び、運営計画を策定した。
(2) 事業内容	1. 研修実施準備 第3年次の事業を開始するにあたり、各CTTCの賃貸契約およびCBOとの覚書を更新した。CTTC施設に必要な簡易修繕として壁のペンキ塗り替え、照明や椅子の修繕等を行い、また、訓練に使用する資機材や訓練生に配布する文具、太陽光発電装置のバッテリー等を調達した。さらに、2020年5月20日、ガザ政府が、新型コロナウイルスの感染防止対策としてマスクと手袋の着用、機材や備品の定期的な除菌、十分な距離の確保を条件に職業訓練校の開講を認めると発表したため、マスク、手袋、消毒液を各CTTCに常備した。 2. 職業技術訓練の実施 職業技術訓練を2学期、計600名の訓練生を対象に実施した。訓練生は、5つの専門コース（①太陽光発電システム管理コース、②家電製品修理コース、③携帯・スマートフォン管理コース、④コンピューター管理コース、⑤マルチメディアコース）のうち1コースを受講し、その後ビジネススキルコース、インターンシップのカリキュラムを経て、訓練を完了した。訓練の修了生は、600名のうち522名だった。修了しなかった78名のうち、最後まで参加を継続したが修了基準に満たなかった訓練生が34名、短期雇用プログラムへの参加、国外への移動、家庭の事情等を理由に継続を断念した訓練生が44名だった。 なお、結果として今年度は制度を利用した訓練生はなかったが、第2年次事業と同様に障害のある訓練生が研修に参加しやすくなるよう介助者の交通費補助などの制度を整えて職業訓練を実施した。 本活動は、新型コロナウイルスの影響で、大幅な計画の変更を余儀なくされた。変更した計画の一つは訓練の実施スケジュールである。2020年3月5日、パレスチナ西岸地区で初めての新型コロナウイルス感染者が確認されたことにより、パレスチナ政府は緊急事態宣言を発出した。職業技術訓練校を含むほとんどのガザ地区の教育機関が6月まで閉鎖されたため、CTTCでの職業技術訓練の開始が7月1日となった。その後も、8月24日から新型コロナウイルス感染拡大抑制のためにガザ地区でロックダウンが実施され、11月22日まで訓練の実施を中断せざるを得なかった。このため、事業期間を4か月延長した。 また、訓練会場の見直しも必要となった。11月22日に訓練再開後は、ガザ労働庁より参加者が1メートル以上の距離を保つ等の新型コロナウイルス感染予防対策をとる条件が設けられた。CTTC

には、この条件下でのビジネススキルの必修3コース（①起業ノウハウ、②eコマース、③ビジネス・コミュニケーション）の実施に十分な広さの教室がなかったため、予算に会場賃貸費を追加し、外部会場でコースを実施した。

これらの変更のため、実際の訓練に充てられる期間が短くなったが、第1学期のビジネススキルの必修3コースと第2学期の専門コースを同時期に実施することで対応し、計画した訓練はすべて実施できた。

3. カリキュラムの見直し・改定

専門コンサルタントと委託契約し、カリキュラムを改定した。コンサルタントは、修了生、講師、カリキュラム開発者、またインターン生を受け入れた企業を訪問して聞き取り調査を実施し、その結果を元に、カリキュラムの内容を改定した。

4. 次学期研修訓練生の選抜

第1学期に1, 160名、第2学期に2, 791名の応募があった。書類審査と面接によって、各学期300名、合計600名（男性435名・女性165名）を選出した。

5. 広報活動

5-1 TVET（技術教育・職業訓練）週間への参加

ガザ地区内での新型コロナウイルス感染拡大の影響から、労働庁と教育庁主催のTVET（技術教育・職業訓練）週間は実施されなかった。

5-2 アウトリーチ・ワークショップの実施

新型コロナウイルス感染拡大の影響によって集会ができなかったため、アウトリーチ・ワークショップをオンライン形式にて実施した。SNSやウェブサイト等のオンラインでCTTCでの職業訓練のカリキュラム、応募条件、CTTCの地図等を伝え、参加者からの質問に回答した。

5-3 CTTC修了式

新型コロナウイルス感染予防措置として、本事業の修了式は各CTTC内で実施した。第1学期の修了式は2021年3月28日から4月1日にかけて実施し、第2学期の修了式は2021年5月7日と8日に実施した。

6. サービス・コーナーの設置

各CTTCにて必要な機材を調達し、サービス・コーナーを設置した。

7. サービス・コーナー利用登録者の選定

サービス・コーナーの利用登録期間は、職業技術訓練の学期の期間と同じにし、学期毎に登録者を入れ替えた。利用登録の条件は、第1学期は第2年次事業の第1学期修了生、第2学期は第2年次事業の第2学期修了生とした。

第1学期は、第2年次事業の第1学期の修了生267名のうち124

名（男性76名、女性48名）から応募があり、第2学期は第2年次事業の第2学期の修了生283名のうち149名（男性107名、女性42名）から応募があった。面接の結果、各学期で75名ずつ、合計150名（男性112名、女性38名）の利用者を選定した。

各利用登録者はCTTCが開いている時間帯に、自主的にサービス・コーナーを利用した。上述の通り、ガザ地区での新型コロナウイルス蔓延によって、CTTCを閉鎖せざるを得ない期間や利用を控える者が多くいたほか、国外への移動や仕事の入手などを理由に、利用を止めた登録者がいた。その結果、月に1回以上サービス・コーナーを利用した登録者は150名中17名に留まった。

8. 本事業終了後の持続的運営のための活動

8-1 CBOのCTTC運営能力強化ワークショップ実施と運営計画策定

事業終了後にCTTCの運営を引き継ぐ3つのCBOの職員に対して、CTTC運営能力強化ワークショップを12回実施した。新型コロナウイルス感染予防のために、3つのCBO合同のワークショップはオンライン会議システムを使って行ない、各CBOへの個別のワークショップを対面で行なった。

合同ワークショップでCBO職員は、資機材の調達方法、日々の運営管理、講師の選定と契約方法、広報活動、訓練生の募集と選定方法、カリキュラムの改定、コースの評価方法、サービス・コーナーの管理方法等について学んだ。また、ドナーとの関係構築やコミュニケーション、資金獲得計画、広報計画、他団体とのパートナーシップ構築計画について話し合い、各CTTCの運営計画を策定した。

8-2 訓練修了生へのモニタリング

第2年次の第2学期と第3年次の第1学期の修了生へのモニタリングおよびデータ集計を完了した。何らかの形（訓練分野その他での就労、インターンシップやボランティア等）で職業経験を積んでいる割合が40%、大学へ進学した割合は15%であった。ガザ経済の悪化という環境要因による影響は強いが、それでも回答者のほぼ全員が訓練経験を「極めて有効」と高く評価しており、若者1人1人が確かな技術と経験の習得を認めており、中には修繕修理業や事業立ち上げに役立てたとの回答も見られた。CTTCごとにこれら情報は、職業訓練の実施や運営資金獲得のための資料として活用されている。

8-3 労働庁の職業訓練校としての認可申請

各CBOへの助言のもと、2020年6月に認可申請を行い、2020年7月にCTTC全3校は、労働庁の認可を取得した。

その他

モニタリング

新型コロナウイルスの蔓延および2021年5月に発生したイスラエルによるガザ地区への攻撃の理由に、事業期間中に現地事業責任者がガザに入域する機会は持てなかったが、現地提携団体との協力によりモニタリングを継続した。

現地提携団体は、受講生と講師の出勤簿を管理し、各コース終了後には、受講生と講師に対してアンケートや聞き取りを実施する等、研修を改善するためのモニタリングを継続的に行なった。また、各CTT

	Cの受講者情報や資機材の状況等をまとめるデータベースを構築して管理した。 CTTCの引き継ぎ 2021年6月21日にCTTC引き継ぎ式を実施した。各CTTCの引き継ぎに関する覚書をCBOと結び、CTTCおよび研修用機材を3つのCBOに引き継いだ。
(3) 達成された成果	<u>期待される成果に向けての達成度</u> 上述の通り、新型コロナウイルス感染拡大による甚大な影響を受けたが、計画した活動のうち可能なものはすべて実施して成果をあげた。 <u>成果を測る指標</u> 1) 訓練を受けた若者：600名 2) 修了基準を満たした若者：522名（受講生の87%） 3) 月に1回以上サービス・コーナーを利用した利用登録者：17名（利用登録者150名の11%） 4) 開催されたCTTC運営能力強化ワークショップ：12回 5) 作成されたCTTC運営マニュアル：3CTTCすべて作成済 6) CTTC運営計画の策定：3CTTCがすべて策定済 職業訓練の実施により「持続可能な開発目標（SDGs）」の、目標4.4「人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を増加させる」ことに寄与したとともに、失業率の高いガザ地区の中でもさらに失業率の高い青年層の職業訓練に取り組んだことで、目標8.6「就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合」の減少にも寄与した。同時に、一定数の女性受益者を含めるよう配慮したことで、目標5「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」の内、特に5.b「女性の能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する」を実現した。具体的には、第3年次に受講した若者の28%が女性であり（600名中165名）、その大半がグラフィックデザインなどICT分野の受講生であった。
(4) 持続発展性	ア) 本事業ではこれまでに、恒常的に事業を継続実施できるよう設備と環境を整え、カリキュラムや教材を開発した上で職業訓練を実施してきた。また、本事業終了後にCTTCの運営を引き継ぐCBOと第1年次から協働し、各CBOから2名のスタッフを受け入れ、CTTCの日常的な運営を共に行うことで運営基盤強化のための人材育成を図ってきた。 イ) CTTCを引き継いだCBOからは、本事業終了後に職業訓練分野で国際NGOとの提携を実施した団体や、また既に他の国際系組織から提携の決定している団体も出ている。また、訓練修了生に施設を開放することで修了生を支援する等、意欲ある活動を実施する団体もある。 ウ) また、第3年次には引き継ぐCBOに運営ノウハウを伝え、CBOは運営マニュアルを作成した。 本事業終了後は、事業を通して育成された人材や運営マニュアルを活用して、CBOが適切な運営方法と規模でCTTCを運営していく。